

地域に根差した、想いの物語

KIYOSEのひと

川づくり・清瀬の会 会長 荒幡経夫さん

柳瀬川・空堀川の自然を守るため、清掃や調査、観察会など多彩な活動を展開。会誌も年2回発行しています。



公式サイトは
こちら



子どものころは多摩川で釣りを楽しんでいたという荒幡さん。昆虫や生きものが大好きだった少年は、大学で水生生物学を修め、水族館に勤務しました。

「通勤の便を考えて清瀬に引っ越してきたんです。30年前くらいかな。でも当時は家と職場の往復で、清瀬のことはまったく知らなかったですよ。」

サンシャイン水族館で約10年にわたって館長を務め、2015年に定年退職。

「退職後1年くらい、清瀬中を歩き回ったんです。すると、川や雑木林でゴソゴソやっている人たちがいてね。『何をしているんですか』って話を聞いたんです。アユが住むくらいきれいな川が近くにあったなんて、知らなかった。びっくりしました。」

そうして川づくり・清瀬の会でボランティアをするようになった荒幡さんは、「川と雑木林は清瀬の“宝”。大切にしたいですね」と話します。

川づくり・清瀬の会は、柳瀬川・空堀川の間を守るための清掃活動や生きものの調査、「きよせの環

境・川まつり」の運営などを行う団体です。なかでも力を入れているのが、子どもたちへの環境教育。保育園や小学校への訪問では、会員が川で採集した魚に子どもたちがふれる体験の機会を提供したり、河川からつながる海洋ごみ問題について話したりしています。

「今、川の生きものにふれる機会ってなかなかないでしょう。ですから観察会を増やしていきたいですね。川をきれいにすることは、生きものたちの家をきれいにすること。将来のある子どもたちが、川や環境のことを自分で考えられるように、伝えていく活動が大切だと思っています。」

生きもの好きだったかつての少年、荒幡さん。今も生きものとのふれ合いを楽しみながら、川づくり・清瀬の会の一員として活動を続けています。柳瀬川や空堀川には、同会の調査で100種類を超える生きものが確認されるほど。川の環境を守ると同時に、川とつながる人の輪を広げていく——そんな営みが、清瀬の川辺で続いています。

清瀬市観光協会の お 推し!

あなたたちも
オススメです!



フードピア
たけしの
星野さん



きよせ棒
きんぴらごぼう味
1袋10本入り410円(税込)

共感でつながる、まちのお菓子

清瀬駅開業100周年記念に合わせ、清瀬市と銚子電鉄株式会社とのコラボにより開発・製作したスナック菓子「きよせ棒」。清瀬産のにんじん、ごぼうのパウダーを使用し「きんぴらごぼう味」に仕上げたこの一品は、根菜の旨味がクセになると話題になり、テレビ番組で紹介されたこともあって、これまでに15万本以上を販売。今では「JA東京みらい 未来新鮮館」や、市内の「セブンイレブン」、地元のスーパー「フードピアたけし」などでも取扱いが広がっています。何よりうれしいのは、清瀬の方々が「自分のまちのお菓子」として、買って配ってくれていること。「清瀬って農地のまちだったな」と誰かがふと思い出してくれるような手みやげに育ってくれたらいいなと願っています。

販売場所は
こちら



more! KIYOSE vol.05

発行：清瀬市シティプロモーション課
発行月：2025年5月
問合せ：☎042-497-1808 (直通)
制作：合同会社ハチコク社
表紙撮影：サイトウ ユウキ
本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。
©2025 more! KIYOSE all rights reserved.



SDGs
未来都市
しあわせは、ここにある
清瀬市
Kiyose City

清瀬市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



みんなの力で
大江戸線を清瀬市へ

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、
気になる情報や見てみたい企
画も募集中です。これまでの
号も合わせてご覧ください。

ご回答は
LoGoフォームへ



バックナンバーは
こちら

